

2008年11月5日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

ヘルスマネジメント関連市場の調査を実施

- 2015年予測 - ヘルスマネジメント関連市場は8,249億円(07年比4.6倍)
 モバイル端末利用健康管理サービス市場が400億円(07年比200倍)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、ITやエレクトロニクス技術を応用した次世代の健康管理をヘルスマネジメントとし、これに関連する機器、システム/サービス、ソフトウェア、デバイスの市場を調査した。その結果を報告書「2008 ヘルスマネジメント関連システム市場の将来展望」にまとめた。

この報告書は、機器13品目、システム/サービス14品目、ソフトウェア2品目、デバイス6品目の合計35品目の市場を明らかにした。

08年4月から「特定健康診査」及び「特定保健指導」が実施され、義務化された。これを受けて、多くの企業が健康管理に関するシステム/サービスの需要を見込み参入したことで、健康保険組合などの法人向けB to B市場が活発化しつつある。そして、今後ターゲットは個人向けB to C市場へとシフトしていくと見られる。

<調査結果の概要>

ヘルスマネジメント関連市場

	2007年	2015年予測	07年比
機器	1,105億円	5,833億円	527.9%
システム/サービス	223億円	1,591億円	713.5%
ソフトウェア	8億円	67億円	837.5%
デバイス	474億円	757億円	159.7%
合計	1,809億円	8,249億円	456.0%

数字は元のデータを億円単位で四捨五入して表示しています。

ヘルスマネジメント関連市場は、機器市場を主体とした構成となっており、今後も機器市場を中心に高い成長が予測される。

機器は、フィットネスゲームや健康管理対応型携帯電話、ベッドサイドモニタ、活動量計(ライフレコーダ)、遠隔管理対応型フィットネス機器など13品目を対象としている。これまでスタンドアロンで利用されてきた機器に通信機能が付加され、その強化が進められている。フィットネスゲームや健康管理対応型携帯電話などのコンシューマ向け機器が伸びており、機器市場がヘルスマネジメント関連市場を牽引している。機器市場はシステム/サービス市場へ与える影響も大きく、また機器市場の拡大は今後のヘルスマネジメント関連市場がB to BからB to Cへ移行する上で欠かせない条件となっている。特に携帯電話や通信機能を持つヘルスマネジメントなどは健康管理機能が標準仕様として普及しつつあり、システム/サービス市場が拡大していく上での環境整備が着々と進んでいる。

システム/サービスは、モバイル端末利用健康管理サービスやフィットネスクラブ連動型健康管理サービス、生活習慣改善ASPサービス、快眠システムなど14のシステムやサービスを対象としている。システム/サービスの市場規模は未だ小さいが、特定健康診査及び特定保健指導の義務化により医療機関や保健指導機関など向けのB to B市場が伸び、拡大すると予測される。特に2015年に向けてモバイル端末利用健康管理サービスや生活習慣改善ASPサービス、KIOSK端末利用健診システムの大きな伸びが期待される。ただ、保健指導機関を代表する健康保険組合では経営難のところも多くB to B市場の限界も見えてきていることから、参入企業はいずれB to C市場へとターゲットを移していくと見られる。

ソフトウェアは、健康増進ゲームソフトとメンタルケアソフトを対象としている。現状では参入企業が少なく市

場規模も小さいが、コンテンツ利用はモバイル端末の健康管理用アプリケーションとして今後広く普及する可能性があり、この市場への期待は決して低くない。

デバイスは、生体のセンシングデバイスが重要な位置付けにある。技術開発次第では機器の性能を飛躍的に進化させ、ヘルスマネジメント関連市場を大きく動かす可能性がある。現状では3D加速度センサが健康管理で大きなウエイトを占める。携帯電話向けやゲーム機に搭載されているが、これら以外にも歩数計の上位機種などにも搭載され始めている。

<注目市場>

1. モバイル端末利用健康管理サービス（システム/サービス）

2007年	2015年予測	07年比
2億円	400億円	200倍

携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどのモバイル端末を利用した健康管理サービスである。測定機器と連動、若しくは測定機能付携帯電話を使用したサービスを対象とし、携帯メールを利用した簡易な健康アドバイスサービスなどは対象外とする。

市場は07年にソフトバンクが「ライフキャリア」というサービスを開始し立ち上がった。08年に入り、NTTドコモやKDDIも健康管理に関する機能を付加した携帯電話を発表、それに対応したシステムを構築しサービス提供を開始している。このサービスは法人、個人を問わず利用できるが、各社は健康保険組合など、B to Bをメインターゲットとしている。

現状は携帯電話を利用したビジネスモデルが中心である。携帯電話は運動量の測定や測定データの管理といった機能付加が加速しており、外部機器との連携なども行なえる「フィールド測定・中継機器」として位置付けが高まっている。携帯音楽プレーヤーを利用したサービスは、Apple社とNIKE社が共同で行なっている「NIKE+」があるが、Web上でのサービス提供（個人のランニング記録など）は無料であり、現段階では機器や運動グッズの販促的な意味合いの方が強い。しかし、携帯音楽プレーヤーはApple社の「iPhone」ように携帯電話機能を付加される傾向もあるなど、健康管理サービスのモバイル端末として、今後一定の位置付けを占めると予想される。

2. 生活習慣改善ASPサービス（システム/サービス）

2007年	2015年予測	07年比
2億円	260億円	130倍

インターネットを利用して、個人の健康データや運動量データを管理し、個人に合わせた生活習慣改善に役立つアドバイスを行なうサービスである。1990年代から提供されはじめたサービスであるが、特定健康診査及び特定保健指導の施行がきっかけとなり健康保険組合などが保健指導ツールとして採用しはじめ、市場が本格化した。

08年は健康保険組合をはじめとする保健指導機関などの法人向け需要が拡大している。今後もB to Bを中心に市場は成長すると予想される。ただし、規模の小さい健康保険組合などは経営難のところも多く、全ての機関での採用は難しいと見られ、法人向けの次のターゲットである個人向けに如何に顧客数を伸ばせるかがポイントである。

モバイル端末利用健康管理サービスとは競合関係にあるが、一方では今後モバイル端末利用健康管理サービスとの連携によるサービス展開も想定される。

3. 健康管理対応型携帯電話端末（機器）

2007年	2015年予測	07年比
600億円	4,500億円	7.5倍

健康管理対応型携帯電話端末は、歩数計や消費カロリーの計測、速度計などの機能が付加されており、測定データを管理することで健康管理や運動支援を行なうことができる。

富士通が他社に先駆けて歩数計機能や消費カロリー計測が出来る「らくらくホン」シリーズをNTTドコモから展開している。08年は健康管理やスポーツ支援機能を付加・充実させた機種が各社から発売されたことで市場が活性化している。東芝は、スポーツを楽しむことをコンセプトにスポーツ補助機能に特化した機種「sportion」を発売している。KDDIは、スポーツ補助のアプリケーションソフトサービス「Run & Walk」や「BEAT RUN」を展開している。またシャープは、外部計測機器とのデータ通信が出来る機種「SH706iw」を発売するなど、健康機器メーカーの製品やサービスとデータ通信ができる携帯電話端末も出てきている。

各社とも携帯電話のアプリケーションの一つとしてこれらの機能を搭載する傾向にあり、歩数、距離、カロリーの計測は多くの機種が専用のソフトウェアをダウンロードすることで可能になってきている。

携帯電話を用いた健康管理や運動のサポートサービスはまだ始まったばかりであるが、今後様々なサービスが展開されていくと予想される。

4. 活動量計(ライフレコーダ)(機器)

2007年	2015年予測	07年比
9億円	90億円	10倍

活動量計は、加速度センサなどを内蔵しており、身に付けた状態で日常生活(立つ、座る、歩く、走る、横になるなど)や運動を行うと、その間にどの程度エネルギーを消費したか(活動量)を算出し記録してくれる機器である。1998年に糖尿病患者の生活指導を目的に開発された「ライフコーダ」(スズケン)が発売されたのが最初である。

これまでは医療機器メーカーが医療機関に納入するケースが殆どであったが、健康に対する意識の高まりを受け、07年の後半から08年にかけて健康機器メーカーや通信システムメーカーなどが一般消費者向けの販売を開始し、市場が本格的に立ち上がり始めている。

現段階では、健康保険組合や企業単位による法人契約が主であることから、契約が締結されれば販売台数が飛躍的に増加する。09年以降は、健康人を対象とした展開も図られていることから更に市場は拡大すると予測される。ユーザーは中高年層の利用がメインになると見られるが、若年層への普及も期待されることから運動や健康管理機能以外にも、携帯性や利便性を追及した製品開発が求められる。

以上

<調査対象品目>

機 器	健康管理対応型携帯電話、活動量計(ライフレコーダ)、通信機能付ヘルスメータ、通信機能付血圧計、運動量計測腕時計、インテリジェンストイレ、フィットネスゲーム、ベッドサイドモニタ、在宅診断キット、パルスオキシメータ、末梢血管モニタリング装置、有酸素メータ、遠隔管理対応型フィットネス機器
システム/ サービス	生活習慣改善ASPサービス、モバイル端末利用健康管理サービス、メンタルヘルスケアサービス、食習慣改善ASPサービス、Web利用禁煙支援サービス、健診業務アウトソーシングサービス、フィットネスクラブ連動型健康管理サービス、健診支援システム、保健指導支援システム、KIOSK端末利用健診システム、リハビリテーション管理支援システム、快眠システム、健康対応IT住宅システム、高齢者向け健康管理システム、
ソフトウェア	メンタルケアソフト、健康増進ゲームソフト
デバイス	3D加速度センサ(健康管理用)、ハウスダストセンサ、ベッドセンサ、花粉モニタ、マイクロTAS(健康管理用)、血糖値チップ

<調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業へのヒアリング調査

<調査期間>

2008年6月~9月

資料タイトル:	「2008 ヘルスマネジメント関連システム市場の将来展望」
体 裁 :	A4判 232頁
価 格 :	97,000円(税込み101,850円)
調査・編集 :	富士経済 大阪マーケティング本部 第一事業部 TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030
発 行 所 :	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/